



東地中海地域ニュース

シリア：アラブ首脳会議（ダマスカス宣言）

（3月30日現地各報道）

現地各報道は30日、29日から2日間シリアのダマスカスで開催されていたアラブ首脳会議の閉会式において「ダマスカス宣言」が採択されたと報じた。同会議への出席者は以下の通りである。なお、ダマスカス宣言は 序文、 宣言、 決定の3項目から成るが、下記は「決定（アラブ諸国を取り巻く挑戦に対峙するため、多数の課題に取り組む事の決定）」16項目中の主要項目（3,4,5,8,14）のみを抜粋した。

首脳会議出席者

1. 国家元首

- (1) PA：アッバース議長
- (2) カタール：ハマド首長
- (3) クウェイト：サバーハ首長
- (4) UAE：ハリーフア大統領
- (5) スーダン：バシール大統領
- (6) リビア：カッザーフィ指導者
- (7) アルジェリア：ブーテフリカ大統領
- (8) モーリタニア：アブドライ大統領
- (9) チュニジア：ベン・アリ大統領
- (10) コモロ：ザンビ大統領

2. 元首以外の首脳国会議代表者

- (1) サウジアラビア：カッターン・アラブ連盟サウジ常駐代表
- (2) ヨルダン：リファイー・アラブ連盟常駐代表
- (3) エジプト：ムフィード・シハープ司法担当国務相
- (4) イラク：アブドゥルマフディー副大統領
- (5) バハレーン：ムハンマド副首相
- (6) オマーン：ファハド副首相
- (7) イエメン：ハーディ副大統領
- (8) レバノン：欠席
- (9) モロッコ：ラシード王弟（29日午前着）
- (10) ソマリア：代表不明
- (11) ジブチ：代表不明

3. オブザーバー出席

- (1) イラン：モッタキー外相
- (2) インド：オモク外務担当国務相
- (3) トルコ：エルトゥールル・アパカン次官
- (4) キプロス：ザキオス首相特使
- (5) 中国：孫必幹（SUN Bigan）中東問題特使
- (6) 日本：有馬龍夫政府代表、中東和平問題担当特使
- (7) EU：オッテ中東担当特使、マヒンティス駐カイロ・スロベニア大使
- (8) 非同盟諸国：ペレス・キューバ外相
- (9) GCC：アティーエ事務局長
- (10) OIC：イフサンオウル事務総長
- (11) 国連関係：パスコー政務局長（UN）セリー特別調整官（UNESCO）、グテーレス国連高等難民弁務官（UNHCR）出席予定だったが、実際は不明

ダマスカス宣言決定事項（主要項目のみ抜粋）

- (3) 中東地域における公正かつ包括的な和平を確立することに取り組む。この取り組みは、正当な国際関連決議、土地と和平の交換原則、並びにマドリード和平会議に基づく。アラブの権利の回復、難民の帰還、エルサレムを首都とした主権国家の樹立、イスラエルが占領したシリアのゴラン高原において 1967 年 6 月 4 日の国境ライン以遠に完全な撤退、及びレバノンにおける残る占領地からの撤退が保証されるべきである。
- (4) アラブ側によるアラブ和平イニシアチブの継続を確認する。同イニシアチブはイスラエルが地域の和平を実現するための国際的な諸決議を完全に遵守することと結びついている。
- (5) 中東和平プロセスを再生する努力に関するアラブ戦略を包括的に評価し検討する。これは将来のアラブ行動のステップを定めることに道を開くものである。
- (8) レバノンが危機から脱出できるように支援するアラブ・イニシアチブを堅持する。危機を乗り越えレバノン統一の安定と繁栄を保証する形で、アラブ連盟事務総長によるレバノン諸勢力に対する和解への努力を支持する。
- (14) イスラムに対する悪意ある攻撃がエスカレートし、敵対的な現象が増大しつつあることに多大な懸念を表明する。特に我々はかつて多様性を認め、他者を受け入れていた国々においてイスラム教徒に対する嫌がらせが増大しているのを目の当たりにしている。世界が経験している急激な一極化は、文化や文明間に広がる大きなギャップを狭めるためのより多大な努力を必要としている。かかる意味において、アラブ連盟と OIC と関連組織の協力は、こうした現象に対峙するために重要である。またこの協力は、公正と寛容を呼びかけ他者を受け入れるイスラムに対する無知と偏狭な見方が増大することに対峙する意味でも重要である。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799